

第2学年〇組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 XXXXXXXXXX 中学校 教諭 〇〇〇〇

1 題材 「幼児とのかかわり方を考え、幼児と触れ合おう」（家族・家庭と子どもの成長）

2 指導観

- 近年、家庭生活を取り巻く環境は大きく変化した。少子化や核家族化が進み、家族や地域とのかかわりも少ないままに成長してしまうことや、幼児虐待や家族の問題などが新聞などで報道されることが多くなった。このことは家族、地域の一員として、人とどのようにかかわっていけばよいのかわからず、他者を理解することや共生の心がまだ十分にはぐくまれていないことなどが原因であると思われる。このような状況の中で、周囲の人に支えられて成長したことに気づき、自分や周囲の人のために、社会や家庭生活の中でバランスのとれた意思決定をし、行動できるようになることが重要である。

本題材では、幼児と触れ合う活動を通して、幼児への関心や理解を深めるとともに、幼児とのかかわり方を工夫することができるようになることをねらいとしている。

学習内容としては、家族の役割、生活習慣の形成、幼児の心身の発達と生活の特徴、遊びの意義、幼児のおもちゃのための配慮点、おもちゃの製作、幼児とのかかわり方、幼児の理解などがある。

これらの学習を通して、幼児だけでなく、高齢者や周囲の人々など、自分と異なる人々の立場を理解し、共生の心をはぐくむことにつなげていきたい。

- 本学級の生徒は、与えられた課題に対しては、まじめに取り組むことができる。しかし、これまで、「してもらう側」に立つことが多く、「誰かのために配慮する」「誰かのために行動する」など経験が不足している。

事前アンケートの「小さい子は好きですか」という問いに対して、41%の生徒が「好き」と答え、10%の生徒が「嫌い」と答え、49%の生徒が「どちらでもない」と答えている。また、身近に幼児がいる生徒は33%という結果を得ている。また、幼児と触れ合う活動について、生徒の意識を尋ねたところ、「世話する自信がない」「遊んだことがない」「何をしてもかわからない」など不安を感じている生徒が28%いることがわかった。これらのことから、生徒はこれまでの生活の中で幼児と接し、触れ合う活動が少なく、不安を感じており、幼児への関心は高くないことがうかがわれる。

- 本題材の指導にあたっては、赤ちゃんクイズを用いて幼児への関心を高めさせるとともに、自らの成長に多くの人々がかかわっていることを知らせるため、自分の成長を振り返るレポートを課題として作成する場を設定する。その後、保育園を訪問し触れ合う活動をすることを知らせ、準備の一環として幼児の心身の発達、幼児にとっての遊び、おもちゃの意義について学習する。

まず、夏休みに幼児と触れ合う活動に備えて、「身の回りのものを活用した幼児のためのおもちゃ」作りの計画をたてるように指示する。その際、家庭にある材料を使い、短時間で製作することを知らせる。

次に、幼児と触れ合う活動の場を設定し、幼児の発達段階に応じた特徴や周囲の環境を見取らせ、「幼児のためのおもちゃ」の計画を、より幼児の実態にあったものとなるような改善につなげるようにする。ここでは、観察シートを活用し、幼児や周囲の環境を観察する時間を十分に取るような工夫をする。

さらに、おもちゃの改善点を話し合い、おもちゃの製作を行う。おもちゃの製作では、触れ合う活動で接した幼児のためにおもちゃを作ることを伝える。その際、幼児の発達段階やおもちゃの改善点に気づかせるために、幼児の発達段階に応じた遊びやおもちゃなどの視点に焦点化したDVDを視聴する場を設定する。話し合う場面では、改善の過程や意図が明確になるように学習プリントの形式を工夫する。

最後に、再度保育園を訪問して、改善した計画に沿って製作したおもちゃを園児にプレゼントする活動を仕組む。再訪問にあたっては、製作したおもちゃを使って交流する時間を設定し、幼児と積極的に関わることができるようにする。幼児とのかかわり方を考え、幼児と触れ合う活動を通して、中学生とは違う特徴をもった幼児への理解を深めさせるとともに、家族や他者を思いやる心を育てることにつなげていきたい。

3 目標

- 幼児に関心を持ち、思いやりのある行動をする。 (生活や技術への関心・意欲・態度)
- 幼児の発達に応じたかかわり方を工夫する。 (生活を工夫し創造する能力)
- 幼児の成長に役立つおもちゃを製作する。 (生活の技能)
- 幼児の心身の発達の特徴を理解する。 (生活や技術についての知識・理解)

(1) 本時の指導観

これまでに生徒たちは、幼児の心身の発達、遊びやおもちゃについて学習した後、保育園を訪問し、幼児との触れ合う活動を体験している。
 前時では、おもちゃを使った遊びの中で育つ多様な能力、幼児のためのおもちゃを作るうえでの配慮点を確認し、それをもとに幼児のためのおもちゃの計画を自己評価している。
 そこで本時は、バランスのとれた思考力・判断力を身に付けさせるために、多様な改善の視点から、より目的にあったおもちゃになるように改善策を考えさせ、意思決定の場を仕組む。
 そのためまず、前時の自己評価をもとにグループで製作する「幼児のためのおもちゃ」を決定する。
 次に、これまでの学習を想起し、幼児の発達段階を確認するために、DVDを視聴する場を設定する。ここでは、幼児の発達段階に応じた遊びやおもちゃなどの視点に焦点化して視聴するようにする。さらに、グループで決定した「幼児のためのおもちゃ」を、幼児につけたい力や幼児のおもちゃを作るうえでの配慮点などの視点からより幼児の実態にあったものとなるよう改善策を話し合う活動を仕組む。その際、グループでの話し合いでは、話し合いの過程や改善の意図が明確になるような、学習プリントの形式を工夫したり、参考になる改善策を考えているグループを取り上げ、中間発表する場を設定したりするなどの支援をする。

(2) 主 眼

○ おもちゃを使った遊びの中で育つ多様な能力、幼児のおもちゃを作るうえでの配慮点などの視点から、幼児にあったおもちゃになるように、改善策を考えることができる。

(3) 準 備

- ① 幼児のおもちゃを作るうえでの配慮事項をまとめた掲示物
- ② 幼児のおもちゃを使った遊びの中で育つ能力と発達段階の関係を示した掲示物
- ③ 学習プリント ④ 夏休みの課題プリント ⑤ おもちゃの自己評価表 ⑥ 観察シート
- ⑦ DVD (幼児の発達段階に応じた遊び、着脱衣、食事など)・視聴覚機器
- ⑧ 実物投影機

(4) 指導過程

学 習 活 動 ・ 内 容	指 導 上 の 留 意 点 (◇は評価とその方法)	準 備	形 態	配 時 (分)
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○前時までの学習での既習事項を振り返るために、掲示物を黒板に貼って提示する。	①②	一斉	9
○夏休みに考えた幼児のためのおもちゃを改善しよう。				
2 グループでつくるおもちゃを決定し、そのおもちゃの課題を明確にして、改善策を考える。	○生徒のおもちゃに対する考えを広げ、深めるために、前時に書いた自己評価表をもとに、グループで話し合う場を設定する。			36
(1) 製作するおもちゃを決定する。 ・ 幼児にあったおもちゃ	○製作するおもちゃを決定する際には、話し合いの過程や決定した理由が明確になるよう学習プリントを工夫し準備する。	③④ ⑤⑥	グループ	(5)
(2) DVDを視聴し、幼児の発達段階を確認する。 ・ 幼児の遊びと生活	○幼児の発達段階に応じた遊びやおもちゃなどの視点に焦点化して視聴するようにする。	⑦	一斉	(8)
(3) おもちゃの改善策を考える。 <改善の視点> ・ おもちゃを使った遊びの中で育つ多様な能力 (感覚、運動能力、社会性、想像力、構成力など) ・ 幼児のためのおもちゃを作るうえでの配慮点 (発達段階にあっているか、安全であるか、丈夫であるかなど) ・ 製作のための時間と材料	◇工：幼児につけたい力、おもちゃの配慮点から改善策を具体的にまとめている。 <発言チェック、プリントチェック・分析> Cの状況の生徒への手だて ○保育園に置いてあるおもちゃと遊びの様子の写真を発達段階ごとにまとめたものを提示し改善策を考える際の参考するよう助言する。	③④ ⑤⑥	グループ	(10)
(4) 話し合いの中間発表する。 ・ おもちゃの改善点	○話し合いの途中で、参考になる改善策を考えているグループを取り上げ、発表する場を設定する。	③④ ⑧	一斉	(5)
(5) 中間発表を参考にして、さらに改善点を考える。	○発表したグループの改善策のよい点を教師がまとめ、参考にするように指示する。	③④ ⑤⑥	グループ	(8)
3 本時のまとめと次時の予告を聞く。 ・ 幼児のためのおもちゃの製作	○次時より製作に入ることを告げ、グループごとに必要な材料や道具を分担、準備するように指示する。	③	一斉	5

「自分の成長を振り返ろう」(1/15)

1 指導観

本時は、乳幼児の生活やその特徴に関心をもつこと、自分の成長には多くの人がかかわってきたということに気づくことを主眼としている。そのために、乳幼児に関心をもてるように赤ちゃんについてのクイズを準備しておき、幼児の生活やその特徴を考えることができるようにする。次に、自分の成長について各区分のエピソードやお世話になった人を考えさせることで多くの人がかかわってきたことに気づかせたい。

2 主眼

- 乳幼児の生活やその特徴に関心をもつことができる。
- 自分の成長には多くの人がかかわってきたということに気づくことができる。

3 準備

- ①赤ちゃんのからだクイズ ②課題レポート(私たちの成長を振り返ろう)

4 指導の過程

学習活動・内容	指導上の留意点 ◇は評価規準 □はC状況の生徒への手だて	準備	形態	配時 (分)
1 本時のめあてを確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自分の成長を振り返ろう</div>		一斉	5
2 赤ちゃんの体の不思議について考える。 (1) 赤ちゃんクイズに答える。 (2) 赤ちゃんの体や発達の特徴を確認する。	<p>○赤ちゃんの体の不思議をクイズ形式で出題し、自分の成長を振り返ることができるようにする。</p> <p>◇関：乳幼児の生活に関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。 <学習プリント分析></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">興味をもてない生徒に対しては、幼い頃の自分や写真を思い出して考えるよう助言する。</div>	①	個 ↓ 一斉	25
3 自分の成長を振り返る。 (1) 一生の区分について説明を聞く。 ・区分 … 乳児期 幼児期 児童期 青年期 (2) 課題について説明を聞く。	<p>○人間の一生の区分を説明する。</p> <p>○自らの成長に多くの人がかかわっていることに気づかせるために、当時のエピソードやお世話になった人について調べる課題を配布し、次時までにかけてくるように伝える。</p> <p>○調べる方法を限定しないようにして、個人のプライバシーに配慮する。</p> <p>◇関：自分の成長と家族や家庭生活の関わりについて、関心をもっている。 <課題レポート分析></p>	②	一斉	10
4 本時のまとめをし、次時の予告を聞く。	<p>○本時の振り返りをし、理解したことをプリントにまとめ、次時の予告を行う。</p>	①	一斉	10

「幼児の身体や運動機能の発達を知ろう」(2/15)

1 指導観

本時は、幼児の身体の特徴や運動機能の発達を理解させることを主眼としている。そのために、自分の成長を振り返った課題レポートを活用し、具体例をあげながら幼児の身体の特長を説明をしていく。また、発達には順序や個人差があることを資料を用いて考えさせる。

2 主 眼

- 幼児の身体の特徴や体型の特徴を知る。
- 幼児の運動機能の発達の順序と特徴を知る。

3 準 備

- ①学習プリントNo.1 ②課題レポート(私たちの成長を振り返ろう) ③運動機能の発達資料

4 指導の過程

学習活動・内容	指導上の留意点 ◇は評価規準 □はC状況の生徒への手だて	準備	形態	配時 (分)
1 本時のめあてを確認する。	○前時は自分の成長を振り返り、乳幼児の生活や家族との関わりについて、考えたことを確認する。 ○本時のめあてを知らせる。	①	一斉	3
幼児の身体や運動機能の発達を知ろう				
2 幼児の身長・体重の発達と身体の特徴についてまとめる。 (1) 幼児の体型と中学生の体型の違いを比較する。 ・年齢による発育の変化 ・体型の特徴 (2) 幼児の身体の発達についてまとめる。 ・歯の発育 ・内臓器官, 体温調節, 脳, 神経系などの発達	○学習プリントを用い、幼児の体型と中学生の体型の違いに気づかせる。 ○発達には個人差があることを知らせる。 ◇知：幼児と中学生の体型の違いや幼児の身体の特徴を理解する。 <様相観察・学習プリント分析>	①②	一斉 ↓ 個	20
3 幼児の運動機能の発達についてまとめる。 ・全身運動と部分運動 ・頭部→下部へ ・中心→先端へ	○資料を用い、全身運動や部分運動機能の発達の順序を考えさせる。 ○発達の特徴を知らせるために、具体例をあげ頭部から下部へ、中心から先端へ発達することを気づかせる。 ◇知：発達の順序に気づくことができる。 <学習プリント分析>	①② ③	一斉 ↓ 個	22
成長について関心がない生徒に対しては、課題レポートや資料を参考に学習プリントをまとめるよう助言する。				
4 本時のまとめをし、次時の予告を聞く。	○本時の振り返りをし、理解したことをプリントにまとめさせる。	①	一斉	5

「幼児の情緒や社会性の発達について知ろう」(3/15)

1 指導観

本時は、幼児の心の発達を理解することを主眼としている。そのために、資料を用いて情緒は分化することを説明する。また、情緒や社会性、ことばの発達は周囲の人々のかかわりによって形成されるため、配慮が必要であることを理解させる。

2 主眼

- 幼児の情緒の発達と感情の表現方法を理解する。
- 幼児のことばの習得と、周囲の人々が配慮すべきことについて理解する。

3 準備

- ①学習プリントNo. 2 ②幼児と周囲の人がかかっている場面の写真

4 指導の過程

学習活動・内容	指導上の留意点 ◇は評価規準 □はC状況の生徒への手だて	準備	形態	配時 (分)
1 本時のめあてを確認する。		①	一斉	3
幼児の情緒や社会性の発達について知ろう。				
2 心の発達について考える。 (1) 情緒の発達について説明を聞く。 ・情緒の分化 ・感情表現の広がり (2) ことばの習得について考える。 ・ことばの発達 ・幼児の周囲の人々が配慮すべきこと (3) 社会性の発達について考える。 ・自我 ・自立と自律	○資料を用いて情緒が分化する順序を知らせ、感情の表わし方がどのように変わるかに気づかせる。 ◇知：情緒の分化と感情の表わし方に相関があることを理解する。 <発言チェック> ○幼児がことばを覚える時期に、まわりの人が配慮しなければならないことについて考えさせる。	①	一斉 ↓ 個 一斉 ↓ 個 一斉 ↓ 個	32
3 幼児と周囲の人々とのかかわり方を考える。	○幼児と周囲の人々がかかっている写真を提示し、段階的にどのような社会性が身につくのかを考えさせる。 ◇知：幼児がことばを覚える時期に、周囲の人々が配慮しなければならないことを理解している。 <学習プリント分析> □配慮が思いつかない生徒に対し、幼児が模倣をして様々なことを習得することを踏まえて考えるよう助言する。	①②	一斉 ↓ 個	10
4 本時のまとめをし、次時の予告を聞く。	○本時の振り返りをし、理解したことを学習プリントにまとめさせる。	①	一斉	5

「幼児の生活習慣の取得について考えよう」(4/15)

1 指導観

本時は、幼児の基本的生活習慣と社会的生活習慣の習得について理解させ、心身の発達との相関性にも気づかせることを主眼としている。そのためにまず、生活習慣は基本的生活習慣と社会的生活習慣に分類できることを知らせる。また、幼児の自立を促すために、幼児の立場に立った言葉かけや工夫が必要なことを理解させる。

2 主眼

- 基本的生活習慣の取得と身体や運動機能の発達に相関性があることを理解する。
- 社会的生活習慣の取得において、幼児の周囲の人々が配慮すべきことを理解する。

3 準備

- ①学習プリントNo. 3 ②幼児の生活習慣の写真

4 指導の過程

学習活動・内容	指導上の留意点 ◇は評価規準 □はC状況の生徒への手だて	準備	形態	配時 (分)
1 本時のめあてを確認する。		①	一斉	3
幼児の生活習慣の取得と、周囲の人々の援助の方法を考えよう。				
2 生活習慣の習得について考える。 (1) 基本的生活習慣と社会的生活習慣について知る。 (2) 基本的生活習慣の発達のためやすについて考える ・生活習慣が身につく順序 ・生活習慣と身体や運動機能の発達との関連性	○生活習慣には、基本的生活習慣と社会的生活習慣があることを知らせる。 ○食事・トイレ・着脱衣・清潔について年齢ごとの写真を提示し、発達に順序があることに気づかせ、プリントに発達のためやすをまとめさせる。 ◇関：基本的生活習慣の発達が、身体の発達や運動機能の発達と関連性があることを理解している。 <学習プリント分析>	①②	一斉 ↓ 個	22
3 生活習慣取得のための周囲の人々の援助の方法について考え、ロールプレイングをする。 ・幼児との接し方 ・周囲の人々がすべき配慮	○場面設定をし、どのように幼児に接したら良いか、行動やことばを考えさせ、ロールプレイングをさせる。 ○幼児に生活習慣を身につけさせるために、周囲の人々はどのような配慮をするべきかを考えさせる。 ◇知：幼児は周囲の人々の行動を模倣して習慣を身につけることを理解している。 <発言チェック・学習プリント分析>	①	一斉	20
幼児の生活習慣の習得について理解していない生徒に対しては、再度写真を提示して考えさせる。				
4 本時のまとめをし、次時の予告を聞く。	○本時の振り返りをし、理解したことをプリントにまとめさせる。	①	一斉	5

「幼児への配慮点を考え、自分のおもちゃを評価しよう」(10/15)

1 指導観

本時は、幼児との触れ合い体験を生かして、夏の課題で考えたおもちゃを幼児への配慮の視点から見直すことを主眼としている。そのためにまず、市販のおもちゃを写真で提示し、幼児のおもちゃを作る上での配慮点と、おもちゃを使った遊びの中で育つ多様な能力を確認する。

次に、夏の課題で考えたおもちゃを自己評価させ、次時のグループでのおもちゃの改善へつなげていきたい。その際に、保育園訪問での幼児との触れ合いも想起させ、思考を深めさせたい。

2 主眼

○ 幼児のためのおもちゃを作る上での配慮点に気づき、多様な視点から夏の課題で考えたおもちゃを自己評価する。

3 準備

①学習プリント No.8 ②幼児のおもちゃの写真(グループワーク用) ③夏の課題プリント

4 指導の過程

学習活動・内容	指導上の留意点 ◇は評価規準 □はC状況の生徒への手だて	準備	形態	配時 (分)
1 本時のめあてを確認する。		①	一斉	3
幼児のおもちゃをつくる上での配慮点を考え、 夏の課題で考えたおもちゃをチェックしよう				
2 市販のおもちゃの写真を見て、幼児への配慮点を確認する。 (1)おもちゃの写真を見ながら、おもちゃを作る上でのポイントを確認する。 (2)おもちゃを使った遊びの中で育つ様々な能力を確認する。	○幼児への配慮が明確なおもちゃを写真で準備し、保育園での観察・体験も参考にさせ、配慮点についての確認を行う。 ○運動能力、想像力など育つ能力の違いが明らかなおもちゃを写真で準備し、確認を行う。	②	一斉 ↓ グループ	22
3 夏の課題で考えたおもちゃ作りの計画を自己評価する。 ・おもちゃの自己評価を行う。	○2でまとめたことを自己評価の際の点検項目とする。 ◇工：夏に考えたおもちゃを発達段階、安全性、色彩などの視点から自己評価することができる。 <発言チェック・学習プリント分析> 自己評価ができていない生徒に対しては、写真資料のおもちゃと自分の計画したおもちゃを比較して、評価するよう助言する。	①③	一斉 ↓ 個 一斉	20
4 本時のまとめをし、次時の活動の予告を聞く。	○次時までには、各自でおもちゃを改善するためのアイデアをさらに深めて考えておくように伝える。	①		5

「おもちゃを使って積極的に幼児と触れ合おう」(15/15)

1 指導観

前時までには、生徒たちは幼児のためのおもちゃを完成させている。そこで本時は、製作したおもちゃを使って幼児と触れ合うことをねらいとし、2回目の保育園実習を行う。そのためにまず、グループごとに1回目の実習と同じクラスに入って幼児とおもちゃで遊ぶ時間を設定する。その際、幼児のつぶやきを聞いたり様子を観察したりしながら積極的に関わるように助言する。これらのことを通して、幼児への理解をさらに深めさせたい。

2 主眼

○ 製作したおもちゃを使って幼児と遊び、積極的に関わろうとする。

3 準備

①製作したおもちゃ ②学習プリントNo.11

4 指導の過程

学習活動・内容	指導上の留意点 ◇は評価規準 □はC状況の生徒への手だて	準備	形態	配時 (分)
1 本時のめあてを確認し、諸注意を聞く。	○健康状態、持ち物、身だしなみの点検を行う。		一斉	2
おもちゃを使って幼児と積極的に触れ合おう				
2 保育園に向けて移動する。	○生徒の安全面に配慮して移動させる。		一斉	10
3 幼児との交流をする。 (1) グループごとに各クラスに入る。 (2) 製作したおもちゃを使って幼児と遊ぶ。	○1回目の訪問の時と同じクラスに入るようにする。 ○幼児のつぶやきや表情に着目させ、製作したおもちゃが幼児の発達段階にあっているか、意図したように遊べるかなどを確認するように、事前に言うておく。 ○おもちゃは、幼児にプレゼントする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 幼児と積極的に関わることができていない生徒に対しては、接し方のアドバイスをしたり、きっかけ作りをしたりする。 </div> ◇関：自分たちが作ったおもちゃを使って幼児と触れ合い、積極的に関わっている。 <様相観察、学習プリント分析>	①	グループ	25
4 中学校に向けて移動する。	○生徒の安全面に配慮して移動させる。		一斉	10
5 本時のまとめを行い、次時の予告を聞く。	○振り返りプリントを配布し、次時まで記入しておくように指示する。	②	一斉	3